

## 東海理化レポートの該当範囲・内容・項目の確定プロセス

本レポートに掲載されている範囲・内容・項目は、下記のステップで確定しました。

### STEP1 掲載課題の把握と抽出

経済・環境・社会情勢やGRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」\*1、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」\*2などを参考に、レポートに掲載すべき課題を把握し抽出しました。

### STEP2 掲載情報の特定

STEP1で抽出した課題に対し、「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等(有価証券報告書記載)」や各部門の情報およびステークホルダーからの要望\*3に基づき掲載情報を特定しました。

### STEP3 掲載情報の優先順位と妥当性の確認

東海理化レポート発行部署を中心に、各部門を含めて特定された掲載情報について、優先順位と妥当性を確認しました。

\*1:GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」  
GRI(Global Reporting Initiative)は、組織の非財務情報の報告に関する国際基準を策定するNGO。「GRIスタンダード」は、経済、環境、社会に与えるインパクトなどの報告に利用する基準指標。

\*2:SDGs[Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)]  
ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



\*3:ステークホルダーからの要望  
ステークホルダーとのアプローチはP22「社会活動報告」を参考。

## Index

- 1 目次
- 2 社長メッセージ
- 4 東海理化 プロフィール / 製品紹介

## 6 SPECIAL 対談

### 人とクルマ、そして社会へつなぐ技術



対談者 常務執行役員 技術開発センター長 **秋田俊樹**

愛知淑徳大学 人間情報学部 准教授 **高原美和氏**

## II 事業活動報告

- 10 財務ハイライト
- 12 経営成績・財政状態に関する分析
- 14 連結財務諸表
- 18 コーポレート・ガバナンス
- 19 コンプライアンス
- 20 機密管理と情報セキュリティ
- 21 リスク管理

## II 社会活動報告

- 23 社員との関わり
- 29 株主・投資家との関わり
- 30 お客様との関わり
- 32 仕入先との関わり
- 33 社会との関わり

## II 環境活動報告

- 35 気候変動問題の解決に向けた取り組み
- 36 2018年度環境活動概要
- 38 低炭素社会の構築
- 44 自然共生社会の構築
- 47 循環型社会の構築
- 50 環境経営
- 55 各工場の取り組み

- 56 東海理化レポートについて
- 57 第三者意見  
愛知淑徳大学人間情報学部  
高原 美和 准教授

